

指定校推薦入試候補者保護者集会

校長 土居 正 明

(季節の挨拶)

さて、本日は本校から指定校推薦入試の制度を使って受験される皆さんの集会です。平日の昼の時間、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。少しお時間をいただいて、お話をさせていただきます。

近年の大学入試は、ここに居られる保護者の皆さんの時とどう違うか御理解をいただいていますか。18歳人口が、戦後最も多かったのが昭和41年と言われますが、18歳人口の戦後2番目のピークと言われるのが平成4年になります。今から25年前で、保護者の皆様の18歳の頃に近い時代でしょうか。もし違っていれば、すみません。平成4年の18歳人口は約205万人、そのうち大学への受験生になった人が約92万人。大学の入学定員が約47万人。約50%でしょうか。それが平成23年度（データが少し古いのでもっと少子化が進んでいますが…）になると、18歳人口が約120万人、受験生約68万人、入学定員が約58万人、約85%になります。実際は入学定員よりこえて合格を出していますので、ほぼ100%といわれています。

この数字は全ての受験生と全ての大学の入学定員をひとからげにしたものです。単純に言うと、平成4年は受験先を特に選ばなくても、全受験生の半分しか大学生になれないので、大学を出たことが一つのステータスになり得ます。受験生が減り、大学の入学定員が増えた現在は、特に選ばなければ、希望すればどこかの大学に入学できるはずという数字になっています。もちろんそんな単純ではないことは当然ですが、雰囲気はだいぶ違うであろうと想像していただけるかと思います。もちろん、これからは大学を出たというだけでは、何のステータスにもならないだろうと思われれます。

自分のやりたい学問や将来への夢を、自分のポテンシャルが最も発揮され、自分が最も活かされるであろうと思われる進路を選ぶことが何より重要だと考えています。これば決して偏差値等で表されるものではありません。皆さ

んはそのことを十分に考え検討し、自分を見つめて進路を決めていることと信じています。

さて、指定校推薦入試という制度は、奈良北高校の先輩たちの実績により、この学校の生徒ならば、という一定のクレジットが与えられた制度です。高校へ入学してから、まじめに一生懸命に、勉学に学校生活に励んできたからこそその制度を活用する権利を得たものと考えています。そのことには素直に喜びたいと思います。ただし、卒業後の皆さんのことを考えると、この制度特有の事情により心配することがたくさんあります。いくつかは思い当たるでしょう。

厳しい話からします。この制度の入学生は大学中退率が高くなるという数字が報告されています。大学受験の期間は長く苦しいものですが、その期間に身につけることも実はたくさんあり、鍛えられ人間としての成長につながっているとも言えます。また、学力の維持という側面からも、よほど心しておかないと、一般受験の壁を越えてきた大学生と大きな差がついてしまうことも想像に難くありません。中退に至らなくても、就職などその先の関門をこえるときに人一倍苦勞するかもしれません。この話は、君たちがもし早く大学入学を決めることができた時、気を抜いて、自分を成長させる厳しさを忘れたときに思い出してもらおう話です。先生方にも皆さんをしっかりと見守り指導していただくようお願いしますが、大切なのは自律するということです。アリとキリギリスの話ではありませんが、今楽をしているのではないかと自分を戒める厳しさを常に持ち続けてほしいのです。その厳しさを自分に対して持ち続けることの方が、みんなと一緒に受験に立ち向かうより、よほど苦しいかもしれません。このことを保護者の皆様にも御理解を頂き、ご家庭においても御指導いただければありがたいと思います。何か不安なことやわからないことがあれば、担任やキャリア教育部までご相談いただければと思います。

本日はお時間を取っていただきありがとうございました。